

小児看護学実習

目的:小児期にある対象の成長・発達を含めた特性を理解し、各健康レベルにある小児や家族の看護に必要な基礎を学ぶ。

目標:1. 小児各期の成長・発達を理解し、対象の発達段階を把握できる。

2. 小児科外来を受診する対象の健康問題を把握し、小児や家族に与える影響について理解できる。

3. 外来で行われる検査・処置助などの実際を通し、小児とその家族に対する看護の方法について理解できる。

4. 保育所実習を通して、健康な乳幼児の成長・発達を理解し、基本的生活習慣や社会性の発達を促す援助ができる。

実習構成 2単位 90時間

小児科外来	4時間	事前オリエンテーション
イムス富士見総合病院	40時間	臨地実習
	5時間	振り返り
保育所	5時間	事前オリエンテーション
ふじみ野市内保育所	36時間	臨地実習

実習内容

1.小児各期の成長・発達を理解し、対象の発達段階を把握できる。

行動目標	内容・方法
1. 一般的な成長・発達の特徴について述べる事が出来る。	・小児の身体的・精神的発達に関する事前学習。 発達段階、発達課題、発育評価など
2. 対象の発達の特徴を述べる事が出来る。	・一般的な成長・発達と比較し、対象について評価する。 カウプ指数、ローレル指数、発育曲線、などからの評価 言語、行動面、反射などの観察から発育評価 ・身長、体重などの計測を実施

2. 小児科外来を受診する対象の健康問題を把握し、小児や家族に与える影響について理解できる。

行動目標	内容・方法
1. 小児に多い疾患、治療や看護について学習できる	・疾患の病態生理、治療、看護の理解 小児看護方法Ⅰで学習した疾患・看護の事前学習 小児科外来で関わった小児の疾患・看護の追加学習 (川崎病、ネフローゼ、RS ウィルス感染症(細気管支炎)、食物アレルギー、てんかん、熱性けいれん)

2. 対象の健康障害が、小児や家族に与える影響について述べられる	・診察を受ける小児・家族に対しての情報収集(問診、バイタルサイン測定など)や症状や訴えのなどの観察を行う ・診察見学し医師の説明、小児や家族の様子を観察し、健康障害が与える影響についてアセスメントする ・小児、家族のアセスメントすることで、発達や健康障害が及ぼす影響、小児・家族に対する援助について考える
3. 継続看護の必要性について述べられる。	・専門外来での診察介助を行い、疾患の経過や在宅での治療、看護の継続について考える。 ・小児に対する医療・保健・福祉の連携について考える。 ・病院から地域社会・在宅への継続看護について考える。

3. 外来で行われる検査・処置助などの実際を通し、小児とその家族に対する看護の方法について理解できる。

行動目標	内容・方法
1. 診察の介助ができる	・診察がスムーズに進むように考えて介助を実施する ・小児の安全を考慮しながら介助する ・小児や家族の不安が解消できるよう、医師への質問、医師からの説明が十分に行えるように心がける。
2. 処置時介助ができる	・採血、点滴挿入時などの安全な固定、介助 発達を考慮した、固定や介助方法を行う
3. ディストラクションが実施できる	・発達に応じた、ディストラクションを実施する 声掛けの工夫、おもちゃやシールなどの工夫をする
4. 予防接種、乳幼児健診の実際を理解できる	・予防接種の種類、接種方法について理解したうえで、薬液の準備から接種までを見学する 感染経路、潜伏期、合併症、主な特徴、登園許可、 予防接種の種類、副反応への対応、接種方法など ・乳幼児健診の実際を見学、身長、体重測定し成長発達について評価する ・母子手帳の記載について内容を把握する

4. 保育所実習を通して、健康な乳幼児の成長・発達を理解し、日常生活の自立に向けた援助ができる。

行動目標	内容・方法
1. 健康な乳幼児の成長・発達について述べられる	・乳幼児の成長・発達、遊び、日常生活行動について事前学習を行う ・乳幼児の成長・発達を身体的、心理的、社会的側面から捉える。
2. 保育環境が理解できる	・オリエンテーションを通じ、集団保育の環境、保育所の1日の流れ、注意事項について理解する ・安全管理、健康管理、事故防止対策について学ぶとともに自己の健康管理安全管理についても十分に注意する。
3. 乳幼児とコミュニケーションが取れ、遊びの提供ができる	・コミュニケーションの実施 - 保育士との関わり、子ども同士のかかわりと反応を観察する - 発達に応じてコミュニケーションの工夫をする - 積極的に子どもとかわる ・成長・発達に応じた遊びの提供を行う - 発達に応じたおもちゃの選択をする - 発達別の遊びの特徴を理解し、遊びの提供をする - 遊びの中から、子ども同士のかかわり、身体面、精神面、情緒などの発達について理解する ・安全に遊べるよう配慮する。困ったときは自己判断せず担当保育士に相談する
4. 日常生活行動の援助の実際ができる	・保育士の指導の下、挨拶、食事、排泄、睡眠、清潔、衣類の着脱など発達に応じて実際に援助する。

実習計画

外来実習

実習前	オリエンテーション・技術練習（学内）	4 時間
1 日目	8：30：病院の概要、外来オリエンテーション ・診察、検査、処置の介助の実施 14：00：専門外来診察見学・介助 16：30：本日の振り返り、明日の援助についての調整 17：00：終了	10 時間
2 日目	8：30：環境整備、診察、検査、処置の介助の実施 14：00：専門外来診察見学・介助、乳幼児健診、予防接種見学 16：30：本日の振り返り、明日の援助についての調整 17：00：終了	10 時間
3 日目	8：30：環境整備、診察、検査、処置の介助の実施 12：00：アセスメント事例の情報収集 12：15：本日の振り返り、明日の援助についての調整 午後：学内 追加学習、アセスメント記載	10 時間
4 日目	8：30：環境整備、診察、検査、処置の介助の実施 12：00：アセスメント事例の情報収集 12：15：4 日間の学び、小児科外来を受診した小児、家族の継続看護について考えたこと。 午後：学内 追加学習、アセスメント記載	10 時間
5 日目	アセスメントの共有、小児科外来での学びカンファレンス 小児科外来を受診した小児、家族の継続看護、地域との連携についての学びの記録	5 時間

保育所実習

実習前	事前オリエンテーション： 概要・構造、1 日の流れ、注意事項など 実習準備（各保育所の構造・施設の様子、スケジュールなどの話し合い。各施設での違いや実習で再確認する事項を明確にする。）	5 時間
1 日目	クラスに分かれ、保育士の指導の下、コミュニケーション、遊び、日常生活支援などの実施	9 時間
2 日目	クラスに分かれ、保育士の指導の下、コミュニケーション、遊び、日常生活支援などの実施	9 時間
3 日目	クラスに分かれ、保育士の指導の下、コミュニケーション、遊び、日常生活支援などの実施	9 時間
4 日目	クラスに分かれ、保育士の指導の下、コミュニケーション、遊び、日常生活支援などの実施	9 時間

臨地実習受講のための前提条件

1. 単位取得領域・科目

基礎看護学実習 小児看護概論、小児看護方法Ⅰ、小児看護方法Ⅱ

2. 円滑な臨地実習のために予習・復習することが望ましい学習科目

- 1) 小児の成長発達、原則、発達段階、発達課題、発育評価(カウプ指数、ローレル指数、発育曲線、言語、行動面、反射などの観察から発育評価)
- 2) 年齢別発達の特徴(新生児、乳児期の特徴、 幼児期の特徴、 学童期の特徴、思春期の特徴)
- 3) 発達段階に合わせた遊び、遊びの意義
- 4) 児童虐待防止法 (児童虐待について)
- 5) 発達別疾病の理解の特徴、
- 6) 疾病をもつ患児の特徴、小児や家族との関わり方 プレパレーション ディストラクション
- 7) 小児外来での看護
- 8) 小児の安全管理とサークルベットの取り扱い方
- 9) 小児看護技術(身長・体重・頭囲・胸囲、バイタルサイン測定(新生児、乳児、幼児、学童それぞれの方法、聴診法も詳しく)
- 10) 誤飲(事故防止対策、誤飲時の対応など)
- 11) 小児に多い処置・検査と看護(新生児、乳児、幼児、学童への固定法、説明方法含む)採血、点滴挿入
- 12) 点滴管理と点滴の固定方法、点滴滴下管理
- 13) 小児に多い症状(啼泣、痛み、呼吸困難、発熱、嘔吐、下痢、脱水、発疹、便秘)
- 14) 小児に多い疾患(川崎病、ネフローゼ、食物アレルギー、てんかん、熱性けいれん、臍ヘルニア、鼠経ヘルニア、停留精巣)
- 15) 小児の感染症(麻疹、風疹、水痘、ムンプス、百日咳、RS ウィルス、インフルエンザ、乳児下痢症、手足口病、ヘルパンギーナ、溶連菌) 感染経路、感染予防対策、登園禁止など
- 16) 予防接種(ワクチンの種類、接種方法、副作用、分類、接種禁止または注意事項など)

小、看護学実習評価表

学生氏名

評価内容	評価基準	自己	教員
1.小児各期の成長・発達を理解し、対象の発達段階を把握できる。(15)	① 成長・発達について事前学習できている ② 対象の発達について、評価できている ③ 対象の成長・発達についてアセスメントできる		
2. 小児科外来を受診する対象の健康問題を把握し、小児や家族に与える影響について理解できる (20)	① 疾患の病態生理・治療、看護について事前学習できている ② 対象の疾患について追加学習ができている ③ 診察を受ける小児・家族の観察ができる ④ カルテ、母子手帳、コミュニケーションなどから対象の情報収集ができる ⑤ 対象の健康障害についてアセスメントできる ⑥ アセスメントから対象に必要な看護が考えられる ⑦ 外来看護の特徴について理解できる ⑧ 継続看護について理解できる		
3. 外来で行われる検査・処置助などの実際を通し、小児とその家族に対する看護の方法について理解できる (25)	① 外来で行われる検査・処置について理解できる ② 診察介助、処置の介助を安全に実施できる ③ 積極的に対象とコミュニケーションができる ④ 発達に合わせた、ディストラクションの実施ができる ⑤ 乳幼児健診の実際を理解できる ⑥ 予防接種の実際について理解できる		
4. 保育所実習を通して、健康な乳幼児の成長・発達を理解し、日常生活の自立に向けた援助ができる (30)	① コミュニケーションや遊びを通じて子どもと関わることが出来る ② 日常生活自立へ向けた関わりができる ③ 子ども同士の関わりが理解できる ④ 集団保育の意義について理解できる		
5. 学生らしい態度で実習に取り組むことができる (10)	① 協調性を持って相手を思いやることができる ② 積極的に実習に臨み、責任を持った行動ができる ③ 明るく挨拶でき、身だしなみに留意できる ④ 健康管理に留意し、遅刻・欠席がない		
特記事項		欠課 時数	遅刻 時数
			評価者 印

参考評価基準 (100～90点) 助言をほとんど必要とせずできる

(89～80点) 助言を得ればできる

(79～70点) 助言を得ればよいといえる

(69～60点) すべてに助言を必要とする

(59点以下) すべてにわたって助言を与えてもできない (わからない)

評価